



2026年6月24日掲載

円安と金利のズレをどう見るか

足元で1ドル＝161円台と円安の動きが続いています。

先週、ウォーシュ新議長による初会合で米連邦準備理事会(FRB)は政策金利を据え置き、日銀は利上げを進めたので、一見、円高要因に見えます。しかし、実際には円安気味の動きが続いています。

イラン情勢の変化に伴い、石油価格が下落しましたが、小売売上高に見られるように、米国の景気指標が底堅いことや、ホルムズ海峡正常化に時間がかかるとの懸念などから、市場は長期的に米金利は下がりにくい、あるいは、再び上昇するとの見方となっています。

このため、政策決定当日に長期金利はおおむね安定していたにもかかわらず、1年程度の短期金利の上昇が目立ちました。一方で、日銀は利上げを進めているものの、インフレの持続性にまだ自信が持てないのか、そのペースは緩やかです。その結果、日米金利差が今後大きく縮小するとは見られていません。

このため、為替市場では日米の金利差の現時点の変化よりも、「今後どうなるか」に目が向いており、当面、円安方向に振れやすくなっているようです。一方、政府・日銀による介入への警戒感から円高に動くこともあり、為替市場は不安定です。

米国の消費者態度指数は、まだコロナ期と同程度に低い水準にあり、小売売上高が堅調であり続けるかわかりません。今後、ガソリン価格の落ち着きで、米国の金利低下期待が強まれば、円高に転じる可能性も強まることになります。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》